

コロナ禍における鉄道駅のエスカレーター利用意識

宇佐美 誠史¹・元田 良孝²

¹正会員 岩手県立大学総合政策学部准教授（〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52）

E-mail: s-usami@iwate-pu.ac.jp

²正会員 岩手県立大学名誉教授（〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52）

E-mail: motoda@iwate-pu.ac.jp

エスカレーターの歩行は広く行われているが、安全性、輸送効率性及びバリアフリーの問題があり議論が多く、メーカーや施設管理者は禁止の意向を持っている。しかしながら、定量的な研究はあまりなく、著者らはここ数年にわたって、議論のベースとなるデータを収集しているところである。その中、昨年度の1都3県居住者を対象とした意識調査では、毎回手すりにつかまっている人は3割程度であり、手すりにつかまらない理由として、「手すりの衛生面が気になる」が多く指摘された。新型コロナウイルスが猛威を振るっている現在において、安全のために必要な手すりは、接触感染の危険性を感じている人が多くなると思われ、エスカレーターの選択意識も以前とは変わっている可能性がある。そこで、本研究では、コロナ禍における鉄道駅のエスカレーターの利用者の意識調査を行い、エスカレーターの利用実態や意識を把握し、その要因分析を行う。

Key Words : Escalator, handrails, COVID-19

1. はじめに

新型コロナウイルスによって、人々の外出頻度が激減し、それに伴って鉄道など公共交通利用も激減した。厚生労働省が公表した新しい生活様式の実践例¹⁾では、以下のように記載されている。公共交通機関の利用においては、「会話は控えめに」や「混んでいる時間帯は避けて」、 「徒歩や自転車利用も併用する」、働き方の新しいスタイルとしては、「テレワーク」や「オンライン会議」などが示されている。これらは、従来の通勤時の高い混雑率にならないよう需要を減らしたり、分散したりすることを期待している。

著者らは、これまで、都内の鉄道駅での観測調査や首都圏の鉄道利用者のエスカレーター利用意識調査などの調査を行い、エスカレーターの安全性と利便性に関する研究を行ってきた。意識調査の結果では、毎回手すりにつかまっている人は3割程度ということがわかった。手すりにつかまらない理由で一番多く挙げられていたのが、男性は約4割、女性は約6割で、衛生面が気になるということであった(図-1)²⁾。

エスカレーターを安全に利用するためには、ステップ

に立ち止まって利用することと手すりにつかまることが推奨されている^{例えば³⁾}。

本研究では、コロナ禍におけるエスカレーターの感染予防策を整理し、鉄道駅のエスカレーター利用がどのように変化しているのかを把握することを目的として、首都圏で日頃から鉄道を利用している人を対象としたWEB上でのアンケートを行う。

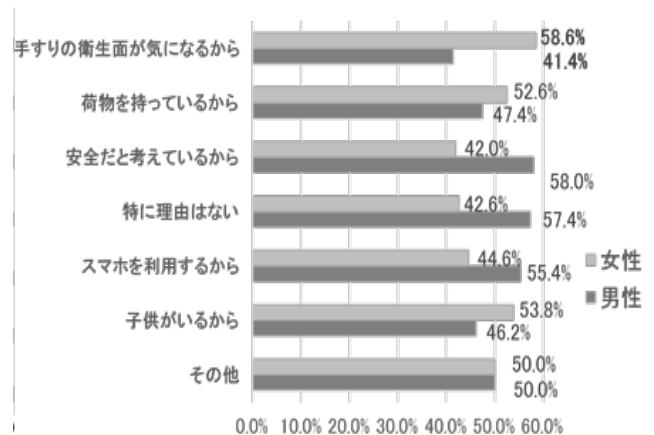


図-1 手すりにつかまらない理由

2. エスカレーターの感染予防策

エスカレーターにおいても、他での感染対策と同様に、接触・飛沫・空気の3つの感染リスクを下げる予防策が中心となる。

各エスカレーターメーカーは、ホームページなどで、利用者に対して、感染のリスクを減らすために以下の呼びかけをしている。手すりにつかまった後は、その手で顔などを触らないこと、石けんによる手洗ひまたは手指のアルコール消毒をすること、他の利用者と一定の距離を保つこと、近い距離での会話は行わないなどと記載している。

各鉄道会社においても、ホームページや掲示などで、列車や駅施設における感染対策を示し、利用者に対しては、車内・駅構内でのマスク着用や車内での会話を控えるなどのお願いをしている。

ロンドン市内の公共交通機関では、基本的にマスク着用が義務づけられていて、違反すると罰金が科せられ、清掃に関しても、接触しやすい場所を中心にこれまで以上に行っているとロンドン交通局のホームページ上で紹介している⁴⁾。

3. コロナ禍の鉄道駅のエスカレーター利用に関する意識調査

新型コロナウイルスに関する意識調査は、国内外で数多く行われているが、鉄道駅におけるエスカレーター利用に関するものは、現段階では見つけられなかった。しかしながら、鉄道駅に限らなければ、オーストラリア人 200 人を対象とした意識調査の項目に、エスカレーターのことを書かれていた⁵⁾。以下、質問文と項目毎の回答割合である。

Q4. SARS-CoV-2 ウイルスに汚染されている可能性が最も高いものはどれですか? (%)

ドアの取っ手や照明のスイッチ 8.4
エレベーターのボタンやエスカレーターの手すり、ATMの機械 8.4
体育館やスポーツ用品 7.9
公共交通機関のドア、座席、取っ手 7.9
お金 7.4
トイレの便座とボタン 6.9
トイレの近くにあるシンクや食器 6.5
携帯電話や携帯電話の充電器 6.1
パソコンのキーボード、マウス、プリンター 6.1
スタッフの休憩室/簡易キッチン/水筒 5.2
台所の調理台 5.1
家具 - 机、椅子など 4.2
キッチン用品またはカトラリー 4.1
おもちゃ 3.7

換気ダクト、通気口、暖房または冷却システム 2.8
食品または食品容器 2.6
郵便物や宅配便 2.3
コーヒーカップの持ち帰り 1.9
店舗での新しい衣類 1.6
カーペットやカーテン 1.1

これをみると、エスカレーターの手すりは、エレベーターのボタンと同じ項目となっていて、それ単体ではないが、最も感染されているかもしれないと思っている人が8.4%いた。そして、これと関連して、公共交通機関のドアや座席、取っ手は、7.9%であった。

コロナ禍における鉄道駅のエスカレーター利用意識に関して、WEB 調査を企画した。まだ、調査結果が出ていないため、ここでは調査概要のみを書く。

調査対象は、首都圏に住み、コロナ禍になる前から鉄道駅のエスカレーターを利用していた人である。主な調査項目は、①コロナ前後における外出頻度・エスカレーター利用頻度、②エスカレーター利用時に手すりにつかまるかどうか、③個々人のエスカレーター利用時におけるコロナ対策、④コロナに関する知識、⑤属性（職業、年代、性格）などである。

4. おわりに

本研究では、コロナ禍における鉄道駅利用者のエスカレーター利用に関して、特には、ステップに乗っているときの行動や意識について把握することを目的としているが、現段階では、既存事例の整理にとどまっている。調査結果の報告は当日の発表で行う。

参考文献

- 1) 厚生労働省：「新しい生活様式」の実践例，https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html (2020/10/04閲覧)
- 2) 畠山真智：都市鉄道駅設置のエスカレーター利用における歩行選択に関する研究，岩手県立大学総合政策学部卒業論文，2020。
- 3) 一般社団法人 日本エレベーター協会：エスカレーターを安全、快適にご利用いただくために，<https://www.n-elekyo.or.jp/instructions/escalator.html> (2020/10/04閲覧)
- 4) TRANSPORTATION FOR LONDON: Safer travel guidance, <https://tfl.gov.uk/campaign/safer-travel-guidance?intcmp=63123> (2020/10/04閲覧)
- 5) Cameron L Jones: COVID-Safe Awareness and Implications for Environmental Surface Testing in Australia, International Journal for Research in Applied Science & Engineering Technology, Volume 8, Issue V, pp.1234-1245, 2020.